

大 会 宣 言

我が国の労働災害は、多くの関係者のたゆまぬ努力もあって、長期的には減少しているものの、今なお年間約五十三万人もの労働者が被災し、千六百人を超える労働者の尊い生命が失われている。

特に、昨年夏以降、我が国を代表する大手製造業等の事業場において、産業界への信頼をゆるがすような爆発・火災などの大規模な災害が相次いで発生しており、重大災害の発生件数は、ここ二十五年間で最悪となっている。一方、急速に複雑、多様化する現代社会の中にあつて、職業生活において強い不安やストレスを感じている者の割合が六割を超える高水準にあるほか、健康診断における有所見者の割合も年々増加する傾向にあるなど、心身両面にわたる健康問題も一層深刻化しつつある。

我が国経済は長期にわたる不況を脱し、明るさを見せつつあるが、働く者の安全と健康の確保は、経済活動の好不況に関わらず、また、如何なる時代にあつても最優先されるべきものである。「安全なくして生産なし」という原点に立ち返つて、規模の大小、業種の如何に関わらず、それぞれの企業、事業場において、安全を最優先する「安全文化」を創造し、その定着を図つていかなければならない。そのためには、すべての人が安心して健康的な職業生活を享受しうるよう、経営トップの率先垂範の下、真に「安全」「健康」「快適」な職場の実現に向けて最大限の努力を続けていかなければならない。

このため、労働安全衛生マネジメントシステムの積極的な導入、定着に努め、ゼロ災害全員参加運動の普及拡大を図り、企業の自主的な安全管理活動を一層強化するとともに、過重労働・メンタルヘルス対策、化学物質管理対策、健康の保持増進対策、安全衛生教育などを充実させることにより、すべての職場における安全衛生水準の一層の向上を図る必要がある。

本大会を契機に、関係者一人ひとりが今一度心を新たに、安全で健康・快適な職場づくりに向けて、英知と力を結集し、全力を挙げて邁進することをここに誓う。

右宣言する。

平成十六年十月二十七日